

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
研究指定校（STEAM型教育牽引校） 令和6年度実施報告書**

1 学校の教育目標等

(1) 教育目標

「集う 学ぶ 拓く」(⇒学校に集い仲間と力を合わせながら、主体的に学び、自らの生きる道を切り拓く)

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

○育てたい生徒像

総合学科高校として、多様な学びを通じ、自らの道を切り拓き、変動する社会で活躍できる人材を育成する。

ア 主体的に学び、挑戦する生徒

イ 地域に愛され、地域に貢献できる生徒

ウ 自分と仲間を大切にする生徒

○育成を目指す資質・能力

基礎・基本に基づく幅広い教養、気付き力、解決に向けて思考する力、論理的に相手に伝える力、仲間と協働する力

(3) 学科等の特色

生徒一人一人の個性を大切にし、自分の進路をしっかりと見つめられるよう、多様な選択科目を設定し、“総合学科らしい総合学科”を目指して、生徒の個性や地域との連携を大切にしながら教育活動を進めている。幼小中高大連携の取組による18年間を見通した“地域の子ども”の育成に向けて、地元の教育力や保護者の協力体制は整っており、本校生徒への期待値が高い。

2 研究結果の概要

(1) STEAM型カリキュラムの改善の内容

昨年度までは、課題の設定にかなりの時間を費やし、PDCAサイクルを1年間で完結できない場面が多く見られた。本年度は、地域課題に関して外部連携を含んだテーマの大枠を教員が事前に設定したため、早い段階で活動の実行・検証ができ、PDCAサイクルを回した探究が可能となった。地域の方との協議やPTAからの活動補助を受けるためのプレゼン等も行うことができ、論理的思考力、表現力、教科の学びを活かすことができた。

本年度は、地域の方と一緒にグループ協議や活動を行う場面で可動式机や椅子を活用できた。

(2) 生徒の変容

実際に計画・実行・検証ができたことから、生徒のアンケートで「企画の立案や、実際に必要な物・資金など、事前の情報から先を見通して考えることができるようになった」という感想が見られた。また、「小学生が楽しく理解できるように工夫して準備に取り組む中で、教育に関わる仕事に興味を持てた」「人を笑顔にする活動を行うことの楽しさを知って、自分のためだけでなく、地域に貢献できる仕事に就きたいと感じた。ただの銀行員ではなく地域のために何ができるかを考えて行動できる銀行員になりたい」「自分の意見を論理的に伝えるという点で国語が役立っていると感じた」という感想もあり、自らの進路や他教科の重要性について考える生徒が増えた。

3 学校実態調査結果（報告書作成時点のもの）

調査名	項目	結果
生徒質問紙調査	Ⅱ (62)「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	15.3%
	Ⅱ (64)「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	11.4%
	Ⅱ (73)「自分は学校が育成を目指す資質・能力を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	11.6%
学校質問紙調査	Ⅰ (7)「各教科において、課題を発見し、解決する過程を通じた「主体的な学び」を全教員が実践している。」において、「ほとんどの教員が当てはまる（8割以上の教員が実践している）」と回答した教員の割合	0%
	Ⅰ (8)「総合的な探究の時間において、課題を発見し、解決する過程を通じた「主体的な学び」を全教員が実践している。」において、「ほとんどの教員が当てはまる（8割以上の教員が実践している）」と回答した教員の割合	0%
	Ⅲ (24)「生徒が「各教科ならではの物事を捉える視点や考え方（各教科における「見方・考え方」）」を組み合わせさせて働かせ、課題解決に取り組み、その中で得られた学びを教科・科目の学習に生かすことができるように、組織的に計画・実施している。」において、「1と2」又は「1と2と3」と回答した教員の割合	50%
	1 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、生徒が複数の教科の「見方・考え方」を組み合わせさせて働かせることができるように、学習内容を計画し、実施している。 2 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、総合的な探究の時間の学びを各教科・科目の学習に生かすことができるように、意見交換・情報共有等を行っている。 3 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、生徒が複数の教科で学習した「知識や内容」を活用できるように、各教科の学習内容を共有している。 4 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、生徒が複数の教科の「見方・考え方」を組み合わせさせて働かせたり、学習した「知識や内容」を活用したりできるような取組を行っていない。	
生徒実態調査	学校外での探究活動（発表会等も含む）に参加した生徒数	209 人（延べ人数）
	学校内外での探究活動の成果を自身の進路選択に活用した生徒数（例）学校推薦型選抜、総合型選抜を受験した生徒数	122 人（延べ人数）
学校独自アンケート等	3年次生総合的な探究の時間のアンケート（生徒質問紙調査と同様の項目）	
	Ⅱ (62)「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	23%
	Ⅱ (64)「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	23%

4 研究の成果及び課題

(1) 成果

学校独自アンケートで3年次に対して生徒質問紙調査と同じ質問を行った。「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合が23%、「やや当てはまる」と回答した生徒の割合が39%、合わせて約6割の生徒が肯定的回答をした。また、「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合が23%、「やや当てはまる」と回答した生徒の割合が48%、合わせて約7割の生徒が肯定的回答をした。このように、総合的な探究の時間を通して、他教科の学習の必要性や自分の将来を考える機会になっていることを実感していることが分かる。これは、地域や外部団体との接点を持ち実際に体験する過程での計画・実行・検証の探究活動が有効であったと考えられる。

(2) 課題

「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答した生徒の割合が約4割、「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答した生徒の割合が約3割あった。「進路とは違う科目だから」「将来の夢とは無関係だから」「生物は選択していないし理系大学へ進むわけでもないため」等の意見が見られ、教科自体を探究活動で使用するか否かで、教科と総合的な探究の時間の横断を判断していた。しかし、中には「就きたい仕事と全然関係ないが、企画をする力はある形であれ将来的に必要なと思った」という回答もあり、教科の見方・考え方を意識し、資質・能力の育成が図られていることを実感させる工夫がより一層必要である。

5 令和7年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和7年度の研究目標

ア アウトプット（活動指標）

(ア)「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒の割合

(イ)「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒の割合

イ アウトカム（成果目標）

(ア) アンケートの結果、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が7割以上になっている。

(イ) アンケートの結果、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が8割以上になっている。

(2) 令和7年度のカリキュラム改善の内容

生徒の定期的な自己評価、目的意識を明確にするための面談やグループ協議、各教科の総探担当者間の情報共有などを丁寧に行っていくことで、生徒の認識の変化を目指す。

6 令和6年度会計報告（見込みを含む）

対象	費目	金額（円）	積算基礎（円）
連絡協議会	旅費（出張旅費）	8,930	1 出張旅費（1人×2回） 6,775+2,155=8,930 円
研究の推進	報償費（講師謝金など）	38,400	1 外部講師（1人） @4,600×3時間=13,800 円 （福山市立大学准教授 辻紳一） 2 外部講師（3人） @4,600×3時間×1人=13,800 円 （福山市立大学准教授 辻紳一） @2,700×1時間=2,700 円 （府中商工会議所青年部 岩室雄大） @2,700×3時間=8,100 円 （府中商工会議所青年部 土井啓史）

	旅費（講師旅費など）	3,220	1 外部講師旅費（1人） 1,080 円 （福山市立大学准教授 辻紳一 バス：リーデンローズ入口～戸手高校入口） 2 外部講師旅費（3人） 1,080+320+740=2,140 円 （福山市立大学准教授 辻紳一 バス：リーデンローズ入口～戸手高校入口） （府中商工会議所青年部 岩室雄大 バス：新市駅前～戸手高校入口 土井啓史 バス：目崎～戸手高校入口）
	需・他（研究に必要な物品購入費など）	360,000	1 ミーティングチェア 10脚×@30,250=302,500 円 2 軽量プラカード 6,543 円 （他の予算と按分 2個×@10,500=21,000） 3 図書室用物品 50,957 円
研修等での 実践報告	旅費（STEAM型カリキュラム推進研修旅費）	34,755	1 STEAM 型カリキュラム推進研修旅費（4人） 6/19（2人） 10,265+5,415=15,680 円 10/30（1人） 7,510 円 12/17（1人） 11,565 円